

週間感染症情報

2026年31週～34週 2026年7月27日より2026年8月23日まで

31週 32週 33週 34週

麻疹				
風疹				
水痘(みずぼうそう)		1	1	
ムンプス(おたふくかぜ)				
百日咳		2		
溶連菌感染症	7	7	2	4
手足口病	2	4		2
ヘルパンギーナ	1	4	1	
伝染性紅斑				
感染性胃腸炎	12	16	6	23
ロタウイルス(再掲)				
ノロウイルス(再掲)				
便アデノウイルス(再掲)				
突発性発疹		2	2	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	2	7		8
ヘルペス性口内炎				
アデノウイルス感染症			1	
RSウイルス感染症			2	
マイコプラズマ感染症	7	9	4	4
ヒトメタニューモウイルス	4	3		
インフルエンザ	2	0	1	3
インフルエンザ A	1	0	1	3
インフルエンザ B				
新型コロナウイルス感染症	32	39	14	16

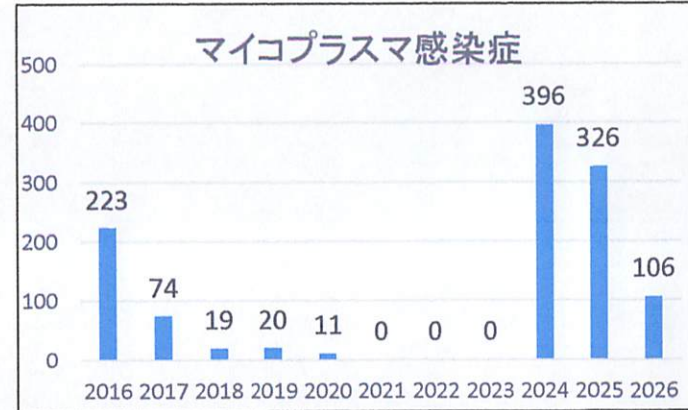
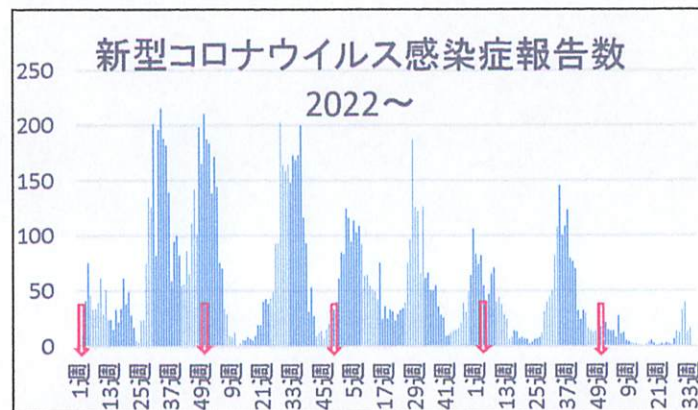
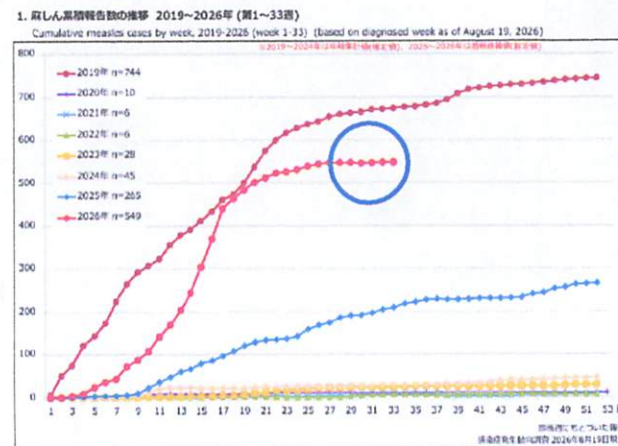
遅くなりましたが4週間分の報告です。33週は診療所のお盆休みがあり、報告数は少ないです。新型コロナウイルス感染症は、29週より小児での報告が増え始め、盆休み以後は減少傾向です。このまま終息してくれるといいのですが。インフルエンザAの報告がちらほらと出始めました。東京や、神奈川ではインフルエンザA(A/H1)の流行が始まりました。昨年より1か月早く、県内でも流行が早まりそうです。2学期が始まり、コロナとインフルエンザの流行が心配されます。

右のグラフは麻疹の報告数の推移です。麻疹は感染力が強く、特別な治療法はありません。高熱が1週間続き、肺炎など合併症を起こし、現在でも1000人に一人は亡くなります。夏休みに入り、報告数の増加が心配されましたが、幸いなことに増えませんでした。しかし、海外では流行が続いています。

麻疹はワクチンで予防できる病気です。接種歴を確認しましょう。1歳児と年長さんは、すぐにMRワクチンを接種しましょう。

右下のグラフはマイコプラズマ感染症の年別報告数です。だらだらと流行が続いています。

熱がなくても咳をしている場合は、マスクの着用をお願いします。手洗い・換気に努めて下さい。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)

三宅内科小児科医院 三宅真砂子